

関西経済レポート

（2017 年 5 月）

～輸出・生産の回復が続く関西経済～

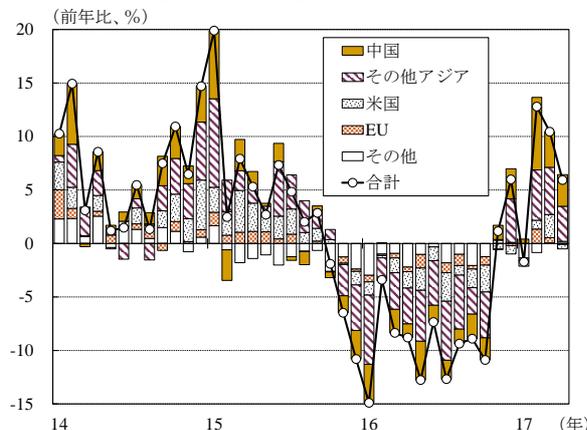
【足元の経済情勢と当面の見通し】

- ◇ 関西経済は、企業部門を中心に緩やかに回復している。
- ◇ 企業部門では、生産が回復しており、輸出も増加している。企業収益は、昨年後半に進んだ円安やそれに伴う輸出の持ち直し等により改善しており、設備投資は前年度を上回る計画となっている。
- ◇ 家計部門では、一部に弱さが残るものの、堅調な雇用・所得環境が個人消費全般の底支えとなっている。
- ◇ 先行き、関西では輸出・生産の回復が続き、インバウンド消費の拡大が景気を下支えするとともに、個人消費も底堅さを維持するとみられる。ただし、海外の政治・経済動向、とりわけ米トランプ政権の政策運営とその貿易政策や為替相場に与える影響には注意を要する。

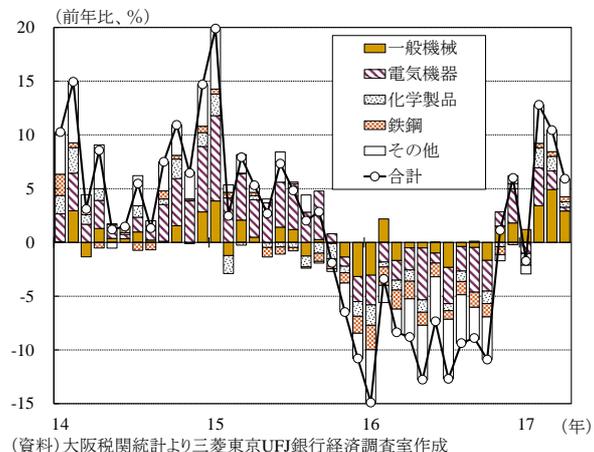
【今月の経済指標】輸出

- ◇ 関西の輸出額（円ベース）は、4月に前年比+5.9%と3ヵ月連続で増加した。地域別にみると、輸出全体の約4分の1を占める中国向け（前年比+12.6%）が増加した一方、米国向け（同▲3.0%）、EU向け（同▲0.8%）は減少した。品目別にみると、スマートフォン向け部品の出荷増加を背景に、一般機械（半導体製造装置等）や電気機器（半導体等電子部品）がアジア向けを中心に増加した。

関西の輸出金額の推移（輸出先別、円ベース）



関西の輸出金額の推移（品目別、円ベース）

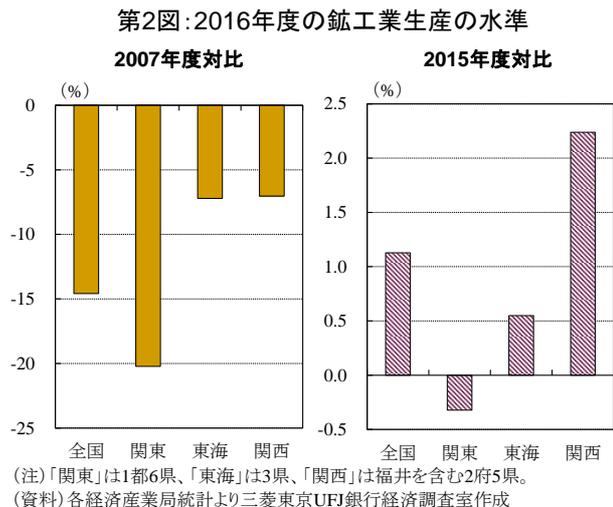


【トピックス】全国を上回るペースで回復する関西の鉱工業生産

1. 関西の鉱工業生産は金融危機前の水準を下回るが、全国よりは回復

全国ベースの鉱工業生産は、2008年のリーマンショックを端緒とする世界金融危機において急激に落ち込んだ後、2010年には危機前の8割程度の水準まで回復した（第1図）。しかし、その後は、東日本大震災（2011年）や消費税率引き上げ（2014年）の影響等による振れを伴いつつ、概ね横ばいで推移しており、リーマンショック前の水準には至っていない。この背景には、金融危機後に進んだ円高によって製造業の海外進出が加速し、生産拠点を国内から移したことで、海外生産比率が高まったこと等が指摘される。

関西においても、生産は金融危機前の水準を取り戻すには至っていない。もっとも、全国や他地域と比較すると、2016年度の関西及び東海の生産水準は危機前の2007年度対比で約▲7%と、全国（約▲15%）や関東（約▲20%）と比べて回復度合いが大きい。また、足元の生産回復局面をみても関西は全国を上回るペースで回復しており、2016年度の関西の生産は前年度比+2.2%と、全国及び関東、東海を上回る増加幅となった（第2図）。



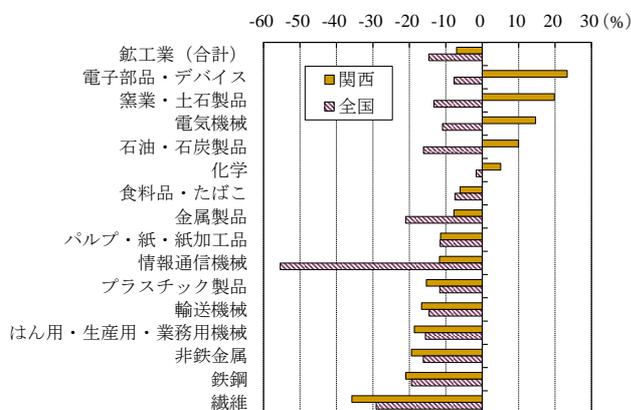
2. 関西では一部の業種が金融危機前の水準を回復

関西の生産が全国以上に回復している背景を探るにあたり、第2図でみた金融危機前（2007年度）と足元（2016年度）の生産水準の比較を業種別にみると、全国では全業種にわたって金融危機前の水準を下回っているのに対し、関西では「電子部品・デバイス」「窯業・土石製品」「電気機械」「石油・石炭製品」「化学」の5業種が危機前の水準を上回っている（次頁第3図）。

各業種の増減が鉱工業生産全体に及ぼす影響度について、各業種のウェイトを加味した“寄与度”をみると、関西では特に「電子部品・デバイス」「電気機械」「窯業・土石製品」「化学」の4業種が増加に寄与している（次頁第4図）。また、関西では、減少幅の大きかった「輸送機械（自動車等）」のウェイトが全国より小さく、一方で、「情報通信

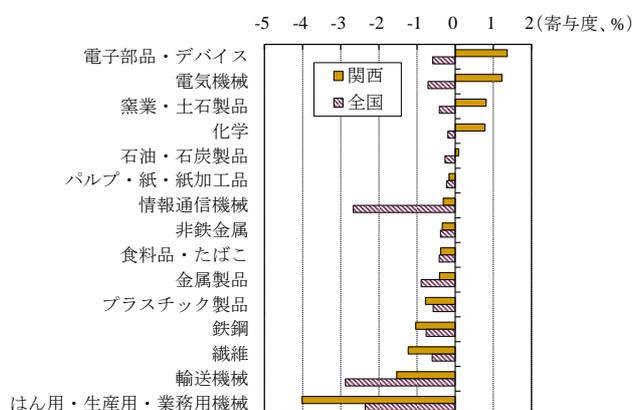
機械（薄型テレビ、パソコン、携帯電話等）」は全国より生産の落ち込みが小さかったこと等があわせて指摘される。

第3図：鉱工業生産の水準比較（2007年度→2016年度）



(注)「関西」は福井を含む2府5県。
(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第4図：鉱工業生産の水準比較（同左、寄与度）



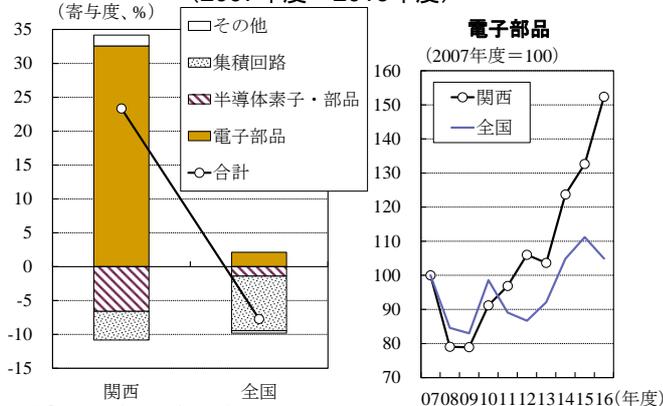
(注)「関西」は福井を含む2府5県。
(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(1) 電子部品関連（電子部品・ファインセラミックス）

「電子部品・デバイス」は、集積回路や半導体素子・部品が関西、全国ともにマイナスに寄与している一方、電子部品は特に関西において大幅に増加している（第5図）。また、「窯業・土石製品」は、関西においてガラス・同製品及び陶磁器・ファインセラミックスが増加に寄与している（第6図）。

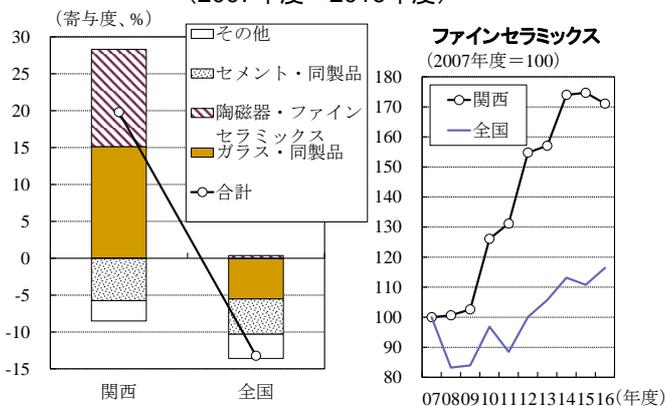
関西には主要電子部品メーカーが集積しており、スマートフォンや車載用部品の需要増加に伴い、電子部品及びファインセラミックスの域内生産が大幅に増加したとみられる。

第5図：電子部品・デバイスの生産水準比較（2007年度→2016年度）



(注)「関西」は福井を含む2府5県。
(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第6図：窯業・土石製品の生産水準比較（2007年度→2016年度）



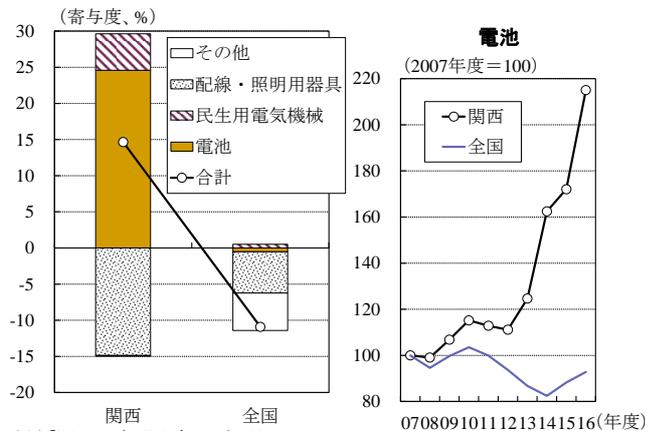
(注)「関西」は福井を含む2府5県。
(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(2) 「電気機械」は電池、「化学」は化粧品が増加

「電気機械」は、特に電池が関西において大幅に増加している（第7図）。関西にはリチウムイオン電池や太陽電池等の生産拠点が集積しており、車載向け等の需要増加が関西の電気機械の生産を牽引している。

「化学」は、化粧品及び油脂製品・界面活性剤が関西、全国ともに増加に寄与している（第8図）。特に化粧品は、近年の訪日外国人観光客増加に伴うインバウンド消費の強まりを受けて、関西、全国ともに増加しており、今後の動向も注目される。

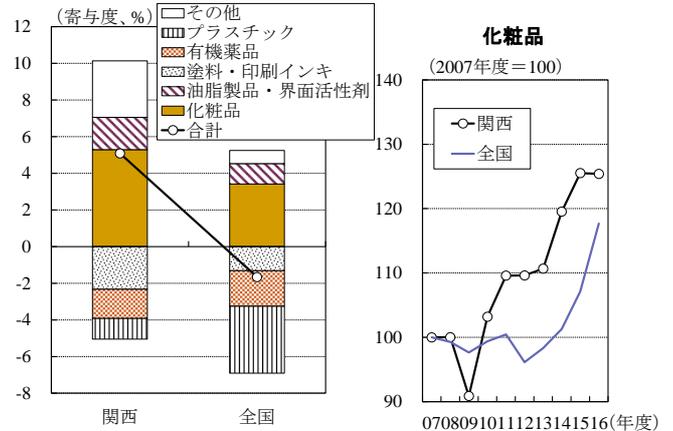
第7図: 電気機械の生産水準比較(2007年度→2016年度)



(注)「関西」は福井を含む2府5県。

(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第8図: 化学の生産水準比較(2007年度→2016年度)



(注)「関西」は福井を含む2府5県。

(資料)近畿経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

企業の海外進出に伴い、関西でも製造業の空洞化が指摘されているが、強みである電子部品や電気機械（電池等）が牽引し、関西の生産は全国を上回るペースで回復してきた。また、近年のインバウンド消費拡大は、化粧品の生産増加等を通じて関西の生産を下支えしている。今後は、スマートフォンや車載向けに加えて、人手不足への対応としてIoT向けの電子部品需要などが顕在化してくれば、関西の生産のさらなる牽引役として期待されよう。

(平成 29 年 6 月 1 日 吉村 晃 akira_2_yoshimura@mufg.jp)

関西経済主要指標一覧

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2016年			2017年		2017年				
					7-9	10-12	1-3	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
景況感	日銀短観(業況判断DI) 全規模・全産業	関西	-	-	-	2	4	7	-	-	-	-	-	-
		全国	-	-	-	5	7	10	-	-	-	-	-	-
	景気ウォッチャー調査 (現状判断DI) 季節調整値	関西	49.9	46.9	-	45.4	51.3	49.8	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9
		全国	48.8	46.4	-	45.4	50.4	48.6	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1
生産・在庫	鉱工業生産(※) 上段:季節調整済前月比% 下段:前年比%	関西	▲1.2	2.2	-	1.4	3.1	▲0.3	2.0	1.8	▲3.4	2.1	▲0.3	-
		全国	▲0.9	1.1	-	1.1	4.3	3.6	6.3	7.5	5.6	5.3	0.4	-
	在庫(※) 上段:季節調整済前月比% 下段:前年比% 年度、四半期は期末値	関西	1.1	▲1.0	-	0.4	▲7.2	4.8	▲5.0	1.9	2.7	0.3	1.7	-
		全国	1.1	▲4.0	-	2.4	▲5.1	▲1.0	▲7.1	▲5.1	▲2.7	▲2.6	▲1.0	-
		関西	1.1	▲4.0	-	▲2.2	▲2.4	2.2	▲1.8	0.7	0.1	0.7	1.5	1.5
		全国	1.1	▲4.0	-	▲2.7	▲5.3	▲4.0	▲5.5	▲5.3	▲5.0	▲3.9	▲4.0	▲1.1
貿易	輸出金額(円ベース) 前年比%	関西	▲1.9	▲3.7	-	▲10.3	▲1.5	7.5	1.1	6.0	▲1.7	12.8	10.4	5.9
		全国	▲0.7	▲3.5	-	▲10.2	▲1.9	8.5	▲0.4	5.4	1.3	11.3	12.0	7.5
	輸入金額(円ベース) 前年比%	関西	▲8.9	▲9.6	-	▲16.7	▲10.3	5.5	▲7.2	▲3.6	9.6	▲6.0	12.2	11.2
		全国	▲10.2	▲10.2	-	▲19.3	▲9.3	8.6	▲8.7	▲2.5	8.4	1.3	15.8	15.1
設備投資	日銀短観(設備投資計画) 全規模・全産業、前年度比%	関西	▲3.5	3.5	2.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全国	3.9	1.1	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雇用	完全失業率 年度、四半期:原数値 月次:季節調整値、%	関西	3.7	3.4	-	3.8	3.0	3.1	3.2	3.2	3.0	3.1	3.2	3.1
		全国	3.3	3.0	-	3.1	2.9	2.9	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	2.8
	雇用者数 前年比、万人	関西	5	18	-	27	22	7	25	19	6	16	0	14
		全国	58	80	-	84	91	55	80	103	59	48	58	57
有効求人倍率 季節調整値、倍	関西	1.15	1.31	-	1.29	1.33	1.35	1.33	1.34	1.34	1.35	1.36	1.41	
	全国	1.24	1.39	-	1.37	1.41	1.44	1.41	1.43	1.43	1.43	1.45	1.48	
個人消費	名目消費支出額 (家計調査ベース) 二人以上の世帯、前年比%	関西	▲2.1	▲2.6	-	0.7	▲4.7	▲2.7	▲2.2	▲4.3	▲3.8	▲3.4	▲1.0	▲1.2
		全国	▲0.9	▲1.6	-	▲2.9	▲0.3	▲1.6	▲0.9	0.1	▲0.6	▲3.4	▲1.0	▲0.9
	消費支出額 (家計消費指数参考統計) 前年比%	関西	▲2.9	▲2.3	-	▲1.5	▲3.0	▲1.1	▲0.7	▲3.2	▲2.3	▲1.1	0.1	-
		全国	▲1.9	▲1.5	-	▲2.7	▲0.9	▲0.8	▲1.3	▲0.5	0.3	▲3.6	0.6	-
	百貨店・スーパー販売額(※) 全店ベース、前年比%	関西	2.9	▲1.6	-	▲2.6	▲1.4	▲1.0	▲1.0	▲1.4	▲0.6	▲1.2	▲1.4	0.4
		全国	2.7	▲1.1	-	▲1.6	▲0.7	▲1.5	▲0.1	▲1.2	▲1.0	▲2.6	▲0.9	0.8
消費者態度指数 原数値	関西	40.9	41.6	-	42.0	40.8	42.3	39.7	41.3	42.2	41.7	43.1	43.1	
	全国	41.5	42.2	-	42.4	41.7	43.3	40.5	42.5	43.0	42.7	44.1	43.1	
住宅投資	新設住宅着工戸数 前年比%	関西	3.9	2.7	-	4.8	▲0.3	1.0	3.2	0.5	7.8	▲4.0	▲0.4	▲9.5
		全国	4.6	5.8	-	7.1	7.9	3.2	6.7	3.9	12.8	▲2.6	0.2	1.9
	マンション供給戸数 前年比%	近畿圏	▲7.4	▲0.1	-	12.3	8.5	▲6.8	16.5	4.8	55.3	▲15.0	▲26.5	5.4
首都圏		▲14.4	▲4.4	-	▲11.4	0.0	10.6	▲22.7	13.2	▲7.4	3.3	26.6	38.6	

(注)設備投資は、ソフトウェアを含む。ただし、日銀短観(設備投資計画)2016年度見込み・2017年度計画。ソフトウェア・研究開発含む。

関西の完全失業率(月次)は当室にて季節調整。有効求人倍率の年度は季節調整値の単純平均。

「関西」は、特に指定のない限り2府4県(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)。

また、指標を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一。(※)は福井県を含む2府5県。

(資料)日本銀行大阪支店、日本銀行、内閣府、近畿経済産業局、経済産業省、大阪税関、財務省、近畿財務局、総務省、厚生労働省、国土交通省、不動産経済研究所資料等より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室（大阪）

吉村 晃 akira_2_yoshimura@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。